

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.11 2010年6月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ファンワード・ストラテジー・アンド・インベ ストメント、Web 会議 ASP サービスを開始、プロ グパーツや会議システム構築にも対応

ファンワード・ストラテジー・アンド・インベストメント株式会社(FSI、東京都千代田区)は、Web 会議 ASP サービス「EZ-VC(イージー・ヴィシー)」を発表した。(5月12日)

EZ-VC は、パソコンに、ブラウザとカメラそしてインターネット接続があれば、複雑な設定などなく Web 会議がすぐに利用できる定額の ASP サービス。英語の easy(簡単)と、ビデオカンファレンス(VC)を組み合わせたサービス名。ソフトウェアのインストールが必要なく Windows、MacOS、Linux に対応している。また Web 会議に必要な最低限の機能に絞り、誰にでもわかりやすいユーザインターフェイスを実現しているという。

EZ-VC の機能としては、テレビ電話、テキストチャット、ファイル送信の他、録音機能も提供している。

また顧客とのコミュニケーションに活用するための、Web 会議にすぐアクセスできる、ブログパーツや Web パーツも提供する。企業のサイトやブログに、ID とパスワード入力用のボックスを埋め込むことで、スクールやセミナー、あるいはカスタマーサポートなどへの活用も可能。

EZ-VC は、サービスとして提供するが、ニーズに応じては、Web 会議サーバや会議システムの構築の他、EZ-VC を組み込んだ Web サイトやシステムのワンストップでの開発なども対応する。

EZ-VC の料金体系は、月額固定。初期費用は、30,000 円(税別)。1 ID あたり 9,800 円/月。ただし、カスタマイズサービスは別途費用がかかる。

ファンワード・ストラテジー・アンド・インベストメントは顧客企業の「イノベーションの創出」と「アセットの価値の最大化と

創造」にフォーカスした事業を展開している。2005 年設立。シナジーゲートやネクプロなどの自社サービスの他、プロジェクト企画やビジネスサポートを行っている。コンサルティングやセミナー研修、新規事業の立ち上げ、翻訳サービスなども提供している。

リードテックジャパン、SIP 対応ポータブル テレビ電話機発売

リードテックジャパン株式会社(東京都渋谷区)は、SIP 対応の H.264 ポータブルテレビ電話「AMOR8210」を発表した。(5月21日)

AMOR8210 は、IP による音声とテレビ電話が行えるとともに、音声とテレビ電話での 3 者通話も行える。

また、フォトフレーム(デジタル写真立て)表示にも対応している。フォトフレームでは、複数の写真を設定により順番に画面に表示させることができるほか、AMOR8210 同士でテレビ電話中に、相手端末の画面に写真を送信し表示させることもできる。

さらに、コードレスで IP 電話や一般電話による通話も可能。ただし、ドッキングに搭載されている変換モジュールを使っでの通話となる。

その他付加機能として、Web ブラウジング、インターネットラジオ、MP3 再生、RSS ニュース、天気予報表示、アラームなどの機能なども提供する。

AMOR8210 の映像符号化方式は、H.263 と H.264、MPEG4 に対応している。また、音声符号化方式は、G.711、G.723、G.729、AMR、iLBC に対応している。

本体筐体には、30 万画素 CMOS カメラ内蔵、7 インチカラータッチパネル液晶(解像度 800x480 画素)、マイクおよびスピーカ、そして、無線 LAN(802.11b/g)、イーサネット接続端子、USB2.0 端子、SD カードインターフェイス、リチ

ウムイオンバッテリーなどを、ポータブルな本体にコンパクトに内蔵している。

本体を持ち運びしない時は、クレードルに置いておくことも可能。クレードルには、PSTN 回線接続、DECT ベースステーション(ハンドセット最大 4 台接続可能)を搭載。また電話用のハンドセットも附属している。

AMOR8210 は、既に同社から販売されているポータブルテレビ電話機としては SIP/H.323 対応の「AMOR8A10」に次いで、2 機種目になる。

リードテックでは、ポータブルテレビ電話機以外にも、H.264 対応ブロードバンドテレビ電話「XTP8886」、ネットワーク監視カメラ「NSC3615」、「WSC3616」、PTZ ネットワーク監視カメラ「NSC3622」、ネットワークケアフォン「NCP3680」、「WCP3681」などの IP-PBX ソリューション向けの端末を販売している。

これらの端末は、IP-PBX ネットワーク環境で相互に通信が可能で、たとえば、テレビ電話はテレビ電話同士の通話だけでなく、監視カメラの映像を確認したりすることもできる。もちろん、閉じられた IP ネットワークだけでなく、オープンなインターネット環境においても PPPoE 機能を使った接続も可能だ。

同社は、1986 年創業。台湾メーカ。台湾証券取引所上場企業。中国や日本に拠点がある。社員の 44.8%は研究開発部門に従事しており R&D へ力を入れている。また最近は、シンクライアントよりもコストパフォーマンスの高い「WinFast VP200 Zero Client」も提供開始した。

関連記事:AMOR8A10, Vol.11 No. 11 2009 年 6 月 15 日号

沖電気ネットワークインテグレーション、ビデオ会議 ASP サービスのラインナップを強化

沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(埼玉県蕨市)は、ビデオ会議 ASP サービス「ビデオ会議@PTOP」のラインナップを強化したと発表。(5 月 26 日)

従来の「専用ネットワークアクセスタイプ」に加えて、今回のラインナップ強化では、以下を追加した。

(1)「イントラアクセスタイプ」:既存のイントラネットをほぼそのまま利用することが可能なサービス。(2)「インターネットアクセスタイプ」:外出先や企業間においてもビデオ会議を利用することが可能なサービス。(3)「ビデオ会議@PTOP フリー版」:インターネット経由で利用でき、最大 6 ヶ月まで無料で利用できるサービス。

なお、イントラアクセスタイプとインターネットアクセスタイプについては、SD 解像度だけでなく HD にも対応し映像の画質について選択の幅を広げた。ただし、ビデオ会議@PTOP フリー版については、SD のみ対応。

高精細な映像を求める製造業や医療分野のユーザから、社外との短期間プロジェクトや社内集会などの一時的な利用においても幅広く対応できるようにした。

初期費用については、イントラアクセスタイプ、インターネットアクセスタイプともに、費用がかからないが、月額費用については、オープン価格となっている。一方、フリー版については、初期費用と最大 6 ヶ月間の費用はかからない。

関連記事:ビデオ会議@PTOP, Vol.11 No.12 2009 年 6 月 30 日号

ニューロネット、ID 型に加えて会議室型 Web 会議も SaaS で提供開始

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)は、6 月 8 日より会議室型 Web 会議「SaaSBoard/Room(サーズボード/ルーム)」を提供開始する。(5 月 7 日)

SaaSBoard は、Web カメラと、インターネットに接続されたパソコンがあれば利用できる。同社では、これまで ID 型の「SaaSBoard/Collabo(サーズボード/コラボ)」を提供してきたが、今回会議型も提供することで、幅広くユーザの要望に応えることが可能になった。

提供する会議室は、同時参加者数に応じて、「Room6」(9,800 円)、「Room9」(19,800 円)、「Room18」(28,900 円)、「Room36」(56,800 円)、「Room50」(78,800 円)、「Room100」(157,800 円)の 6 タイプある。ただし、初期費

用などの付加費用はない。

映像音声会話、画面共有、Web ボード、文字チャットなどの主な機能は、ID 型と同じだが、一方で、会議室の予約管理の方法と、会議に関係する人・情報の管理の仕組みについては、ID 型と比べ 180 度変えたという。しかし、会議を主催する「会議オーナー」は、無制限に登録できる上に、会議に招待される参加者はメールアドレスを持っている人であれば誰でも招待可能。また、会議が終われば、使用した Web ボード(ホワイトボード)やチャットなどの情報は、情報漏洩を防止する観点から自動的に消去される。

SaaSBoard は、経費削減を検討する企業への展開から販売を開始しているが、最大 100 名が同時利用できる Room100 については、セミナー、シンポジウム、学会、大学、塾など教育機関をメインに提案していく予定。また販売パートナーも募集していく。

関連記事: SaaSBoard, Vol.11 No. 19 2009 年 10 月 15 日号

製品・サービス動向-海外

Vidyo 社、テレビ会議の遠隔医療ソリューションを発表

米 Vidyo 社は、遠隔医療向けのビデオ会議システム「VidyoHealth(ヴィディオヘルス)」を発表した。(5 月 22 日) 同日より発売した。

VidyoHealth は、専用のネットワーク設備を必要とせず、PC および Mac のデスクトップあるいはラップトップ、HD ルームシステム、あるいは、ビデオ会議機能を搭載した臨床用カート、およびコンソールなどで利用できるソリューション。

そのため、幅広い活用が可能で、病院や診療所などの医療施設や患者宅などどこでも活用ができるという。また、医療カメラや画像装置から得たビデオや画像を統合した利用方法も可能のようだ。

VidyoHealth は、他社が提供している医療アプリケーションと比べ約 10%の低コスト化を実現しているという。

VidyoHealth で提供されるシステムは、以下の通り。(1)「VidyoDesktop」: Windows と Mac に対応したソフトウェアクラ

イアント。(2)「VidyoClick」: オプションとして自宅用患者のためのタッチスクリーンと単一ボタン操作によるシステムの提供。(3)「VidyoPortal」: インテルの x86 ベース基にしたウェブベース管理サービスの提供。(4)「VidyoRouter」: インテルの x86 ベース基にしたソフトウェアベースのマルチポイント・ポート、呼出処理、ルーティングの機能の提供。(5)「VidyoRoom」: HIPAA 対応または非対応の医療カート・システムの提供。(6)「VidyoGateway」: オプションとして Vidyo Conferencing システムとレガシー H.323/SIP 間との接続の提供。

Vidyo 社、アンドロイドやモブリン搭載の携帯電話やタブレットに対応したソフトウェア開発キットを発表

Vidyo 社は、ソフトウェア開発キット「VidyoTechnology(ヴィディオテクノロジー)」の提供を発表した。(5 月 26 日)

VidyoTechnology は、ビデオ会議アプリケーションを、アンドロイドやモブリン搭載の携帯電話やタブレットに組み込むための開発キット(SDK)。今回のサポート対象は、インテルの Atom Z6xx(旧モーレストタウン)と、ARM プロセッサになる。また今後 MeeGo OS もサポート予定。

この VidyoTechnology は、「VidyoRouter」の基本設計概念を採用しており、遅延なしでレートマッチングが可能な技術。インターネットの他、LTE、3G、4G などのワイヤレス・ネットワーク上で自然なビデオ会議を行うためには重要であるという。

VidyoTechnology は、主要なスマートフォンおよびタブレットのプラットフォーム上にエラー回復力のある多地点ビデオ会議アプリケーションを構築することができるため、スマートフォンやタブレット、また、デスクトップを含む既存の端末、ルームシステム、テレプレゼンスプラットフォームとの間のビデオ会議を統合させる製品の提供を可能にする。

なお、この VidyoTechnology は、現在、ビデオ会議、テ

レビチャット、ユニファイドコミュニケーション、テレプレゼンスを統合するために同社の OEM 顧客に提供されているという。

ビジネス動向-国内

バーチャレクス・コンサルティングとブイキューブ、コンタクトセンター向けソリューションで協業

バーチャレクス・コンサルティング株式会社(東京都港区)は、株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)と協業すると発表。バーチャレクス・コンサルティングの顧客管理ソフトウェア「inspirX Communication(インスピリ・コミュニケーション)」に、ブイキューブが提供している Web 会議ソリューション「nice to meet you」を組み込んだ連携ソリューションの提供を開始した。コンタクトセンター向けに提供していく。(5月12日。注意:nice to meet you の名称は、5月17日以降社名と同じ「V-CUBE」にブランド名を変更している)

両社によると、ビジュアルコミュニケーションの機能を組み込んだ CRM ソリューションの提供は、国産ベンダーの共同によるものとしては国内初めての試みだが、同社の安定性や相性が検証済みのため充実したサポートを提供することができるという。今後両社は、この連携ソリューションについてのマーケティングと販売活動を協力していく。

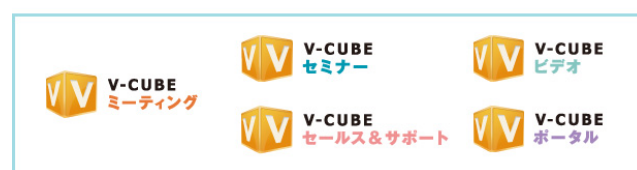
顧客管理ソフトウェア (CRM) である、inspirX Communication(インスピーリ コミュニケーション)は、顧客との電話、メール、FAX、Web を通じて行われるやりとりや実際の訪問履歴など低コストでシンプルにきめ細かく統合的に管理また分析できるところに特長がある。

バーチャレクス・コンサルティングは、CRM など企業と顧客の接点の最適化にフォーカスしたコンサルティングやソリューションを提供している。

ブイキューブ、サービスブランド名の変更、新機能の追加、今後のグローバル展開について発表
株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、サービスブランド名の変更、それに合わせての新機能の追加、また、今

後のグローバル展開について発表した。(5月17日)

ブランド名の変更については、同社の Web 会議サービス名である「nice to meet you」を、「V-CUBE」に変更する。ビジュアルコミュニケーション市場が拡大しているなかで、ブイキューブとして、より強力なグローバル・ブランディングを行っていくために、企業名とサービス名を合致させることにした。



(ブイキューブ資料)

またそれに加え、動画や音声を用いたアプリケーションがネットコミュニケーションにおいて当たり前になってきていることから、今後は、グローバルな市場での展開、スピーディな技術開発、多くの企業との連携やパートナーシップの構築などに注力していく。それにより、さらなる普及を目指し、2011年の売上は30億円を目標とする。

また、2点目の新機能の追加については以下の通り。新規端末への対応や各サービスでの高画質・高音質化へのニーズに対応した点がポイントになっている。

(1)「iPhone」や「Android」などのスマートフォンへの対応。音声通話、映像と資料の閲覧、チャット、ホワイトボード、撮影した写真のホワイトボードへの貼りこみなど。

(2)「iPad」へのアプリ搭載。搭載時期は、2010年5月から6月。Apple Storeへ申請中。ブイキューブでは、ペーパーレス会議を提案する考え。一拠点から複数人で参加される会議において、資料は各自手元のiPadで閲覧できるスタイルを想定。特長は、機能をホワイトボードの閲覧と書き込みに絞り、操作を簡単にした点。

(3)ホワイトボードのベクター化。「V-CUBE セミナー」において、パワーポイント(ppt/pptx)のアニメーションを配信可能にするとともに、資料を拡大しても質が落ちない繊細な表示も可能にした。今年2月搭載済み機能。

また、一方で、「V-CUBE ミーティング」、「V-CUBE セールス&サポート」において、ホワイトボードへアップロードされた資料をベクター形式で変換し、拡大しても質が落ちない精細な表示が可能。この機能はβバージョンとして提供。アップロード時に従来の方式も選択可能。5月17日搭載。

(4) エコーキャンセラー対応。ソフトウェアをインストールすることでエコーの抑制が可能になる。βバージョンで5月17日より提供。Windowsのみ対応。ヘッドセットをつかわずハンズフリーでWeb会議を行う際に最適。5月17日より対応。

(5) 多言語対応。中国語に対応。5月17日より対応。

3点目の今後のグローバル展開について。

ブイキューブは、昨年9月にマレーシアに事務所を設立し、今後シンガポール、ベトナム、タイといったアジアの国々へ進出を予定している。

アジアへ目を向けた理由のひとつに、欧米とアジアでのコミュニケーションの違いを挙げる。欧米では顔を合わせずに意思決定する電話会議の文化が定着しているが、一方で、日本人やアジアの国々では、フェイスツーフェイスによる意思決定を重視する傾向があるという。そのため、欧米と日本ではWeb会議の出身が全く違って、アプローチの仕方も異なるため、日本と似た文化を持つアジアの国々に展開することにした。

今後の展開としては、インテルとの資本提携を軸にした新パートナー戦略、SEA諸国の大手キャリア・システムインテグレーターを通じたOEM販売、新しいビジネスパートナーとの新ビジネスモデルの構築などを通して、アジアのIT市場の活性化に貢献し、それを弾みにアジアからさらにグローバルな展開を目指す。2011年は売上5億円。ブイキューブ全体の約16%を目標としている。

ビジネス動向-海外

ポリコム、社長兼CEOにAndrew Miller氏を任命

米ポリコム社は、取締役会の指名によりAndrew Miller氏が5月10日付けで同社の社長兼CEOに就任したことを発表した。

前任者のRobert Hargerty氏は、CEO兼社長及び取締役会会長の座を退き、さらに、取締役会も辞任する。ただし、円滑な引き継ぎのために、Hargerty氏は、後任のMiller氏と取締役会の相談役を務める予定。

また、現在社外取締役を務めるDavid DeWalt氏が取締役会会長に就任する。同氏は、McAfee社のCEO兼社長を現在務めている。取締役会では、今年の年次株主総会の直後にMiller氏を取締役に任命する予定。

Robert Hargerty氏は、約13年間の在職期間中にポリコムを3,700万ドルから11億ドル規模の企業に成長させた。

一方、Andrew Miller氏は、2009年にポリコム社に入社し、グローバルフィールドオペレーションズ担当上級副社長として同社のGo To Market戦略の変革、中核的な戦略であるサービスプロバイダーとの提携関係の構築、及びPOCN(Polycom Open Collaboration Network)の展開などですでに実績を上げているという。同氏は、ポリコムに入社する前は、シスコシステムズ社やタンバーク社、IPC Information Systems社などでの経歴があり、現在は、BroadSoft社の取締役も務めている。

ユニファイドコミュニケーション環境での相互運用性の促進を目的とした業界団体の設立

HP、ジュニパーネットワークス、マイクロソフト、ロジテック/ライフサイズ、そしてポリコムの5社のテクノロジー会社は、UCIFを設立したと発表した。(5月19日)

UCIFは、Unified Communications Interoperability Forum(ユニファイドコミュニケーションインターオペラビリティフォーラム)の略。ユニファイドコミュニケーション環境でのベンダー間の相互運用性(相互接続性)を促進していくことを目的に設立された。

また創立メンバー5社以外で設立時にUCIFメンバーとして参加した企業は、Acme Packet、Aspect、AudioCodes、Broadcom、BroadSoft、Brocade、ClearOne、Jabra、Plantorics、RADVISION、Siemens Enterprises Communications、Telirisの12社。

今後の市場の拡大が期待されている反面、ビデオ会議やテレプレゼンスを中心としたユニファイドコミュニケーションソリューションは、多様化を呈してきている。そのため、異なったベンダー相互間の通信接続上の課題が出て来ており、ユーザはユニファイドコミュニケーションの導入の意思はあっても、実際の導入が進まないという問題が出て来ているという。

そういった状況を改善していくために、UCIF は、ユニファイドコミュニケーションの実装において課題となっている、シグナリング、コーデック、プロトコル、端末コンフィギュレーション、ファイアウォールトラバーサルなどの課題に対して、ユーザからのフィードバックを基にベンダー間の課題の解決に取り組んでいく考えだ。

その課題解決の一環として、UCIF では、メンバー企業間での複数ベンダー間の相互検証作業 (multi-lateral testing) を行う。相互運用性が検証できた端末やソリューションについて認定 (certification) をすることで、ユーザに対して、相互運用性の保証 (interoperability assurance) を行いたい考えのようだ。これにより、ユーザの UC への移行や導入プロセスを簡略化することが可能で、UC の普及が促進されるのではないかと UCIF では期待している。

また、この相互検証作業への参加は、ユーザへのメリットの他、参加する UC ソリューションベンダーなどにも参加価値があるという。個別に相互検証作業を行うよりも、既に多数の UC ベンダーが参加している UCIF で行ったほうがコスト的にも稼働的にもメリットが高いと UCIF では説明する。

UCIF への参加は、ハードウェア、ソフトウェアソリューションプロバイダー、サービスプロバイダー、ネットワークオペレーターなど広くオープンにしているという。

事務局は、Inventures, Inc 社。関連のプレスリリースは、各社から発表されている。

UCIF <http://www.ucif.org/>

導入・利用事例

富山信用金庫、県下 33 ヶ所に OKI の Visual Nexus を導入

株式会社沖電気カスタマアドテック(東京都江東区)は、富山信用金庫(富山県富山市)に対して、OKI のビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」を納入した。富山県下 33 ヶ所で Visual Nexus の一斉稼働を開始する。(5月17日)

富山信用金庫は、富山市に本店を持つ信用金庫で、顧客満足度の向上と金庫内部の業務を効率化させる目的でビデオ会議システムの導入を検討していた。

システム選定にあたっては、既設のネットワーク上で負荷なく接続できること、店内大型ディスプレイでの利用に適した高品質な映像、だれもがすぐ使える簡単な操作性などが優先事項として挙げられていた。またこれらに加え、録画機能も評価されたことが、Visual Nexus 採用の理由という。



システム展開イメージ (沖電気工業資料)

Visual Nexus を導入することで、会議に関わる移動コストの削減や、本支店間の速やかな情報共有による業務効率化、集合研修を極力減らす、職員の業務負担軽減などを旨とする。また使用実績を積んだ後には、相談窓口業務の支援ツールとしての活用も検討する。

沖電気カスタマアドテックは、OKI グループのサポートサービス会社。

富山信用金庫 <http://www.shinkin.co.jp/tomishin/>

セミナーレポート

「RADVISION テクノロジ・ソリューション・セミナー2010」ラドビジョンジャパンセミナーレポート

ラドビジョンジャパン株式会社(東京都台東区)は、5月25日都内にて、「RADVISION テクノロジ・ソリューション・セミナー2010」を開催した。



セミナー会場の様子(ラドビジョンジャパン資料)

今回のセミナーでは、サーバやクライアントシステム開発者を対象とした各種ソリューションの展示とセミナー講演が行われた。VoIP など通信システム開発に従事しているエンジニアの方が中心に多数参加した。

セミナー冒頭、テクノロジー事業開発本部長 板橋 達夫氏が今回のセミナーの趣旨や内容、TBU 事業の状況などを説明。板橋氏は、ラドビジョン TBU 部門の日本での責任者にあたる。TBU 部門は、開発ツールやフレームワークなどを取り扱う部門だ。ちなみに、「SCOPIA Elite MCU」などはNBU 部門が提供しているシステム製品となる。

同社は、ISDN が全盛の1992年に設立。以来、IPコミュニケーションの技術にフォーカスし、他社に先駆けて VoIP 技術をいち早く市場に導入するなど製品と技術両面において常に業界をリードしてきた。その間、ITU-T などの標準化活動や相互接続団体などでも活発に活動してきた。開発者向けソリューションは、日本の国内主要メーカーを含め全世界700社以上に採用されている。

2000年3月には、NASDAQ に上場(RVSN)し、その後今までに世界中に4ヶ所の開発拠点、そして17ヶ所の営業・サポート拠点を設立。社員数は、現在約440名。2009年度の年間売上は、8,100万ドル。現金資産は1億2,600万ドルにのぼり、無借金経営。健全な財務状態で事業経営が行われている。

開発者向けソリューションは、SIPサーバとクライアント開発の両方をサポートしたソリューションの他、H.323やNATトラバース、またIMS SIP Suiteなどのプロトコルツールキット、さらには、検証などのための試験ツールなどまで包括的に提供するとともに、開発を強力にバックアップするプロフェッショナルサービスも提供されている。

「当社の開発者向けソリューションの強みは、さまざまなネットワークや端末の開発に対応した包括的なソリューションをグローバルに提供しているという点である。またそれに加え、ターンキーソリューションであるため開発費用の削減や市場導入期間の短縮に貢献する点も強みのひとつだ。もちろん、最近のトレンドであるSIPやHD、あるいはアンドロイドなどにも最先端の技術をタイムリーに対応している。」(板橋 達夫氏)

日本でのTBU事業については、国内TBUパートナーである、NTTアドバンステクノロジー株式会社、アイピーネットフュージョン株式会社、サクサシステムエンジニアリング株式会社と共同でビジネスを行っており、今後パートナーシップ拡大も視野に事業拡大を目指しているという。

「パートナー企業様と一緒に日本のビジュアルコミュニケーション市場を活性化し、その中で当社としては、総合ビデオ会議メーカーとして大きく成長していきたいと考えている。」(板橋 達夫氏)

板橋氏の講演の次は、ラドビジョン社本社プロダクトマネージャ Sharon Laivand氏が登壇。サーバとクライアントソリューションの紹介とデモが行われた。

冒頭、Laivand氏は、「SIPアプリケーションは、ユニファイドコミュニケーションから、クラウドなどのホスティングサービスまで広がっており、IPコミュニケーションの主流にな

ってきている。またそれにあわせて、SIPに対応した端末も数多く市場に出て来ている。そういった中でそれらのアプリケーションや通信端末の要になる SIP サーバの役割は今後ますます大きくなる。」と SIP サーバの将来性を指摘する。



Sharon Laivand 氏 (ラドビジョンジャパン資料)

現に、そういった、ユニファイドコミュニケーションやビジュアルコミュニケーション、ホスト型サービスなどのアプリケーションが広がっていく状況の中で、SIP サーバへの需要が拡大している。

「今後は、現実問題として、クラウドやピアリング、組込みシステムなどのニーズにも対応していく必要がある。将来の方向性も見定めて、それらの要件に全て応えられるのが、当社の SIP サーバフレームワークなどの開発者向けソリューションだ。組込型の SIP サーバにも対応し、また SIP のピアリングへの要望には、SIPconnect を提供している。」(Sharon Laivand 氏)

SIP の広がりに加え、インターネットでのビデオも当たり前になってきたといえる。「ビデオ会議やテレプレゼンス、IPTV だけでなく、youtube や yahoo メッセンジャー、Skype、あるいは、ソーシャルネットワーキングサービスと、インタラクティブビデオは私たちの生活の至るところに広がり、身近なものになった。またそれに合わせて、ビデオチャットやビデオストリーミングに対応したビデオ・レディ・デバイス (video ready device) も沢山見られるようになった。」(Sharon Laivand 氏)

では、インタラクティブビデオは、具体的に、どういった製

品に実装されているのか。「ビデオ会議システムは、インタラクティブビデオのある意味、専売特許であったが、昨今の技術の進化によって、ノート PC の他、セットトップボックス、パーソナルメディアプレーヤ、デジタルピクチャーフレーム、プロジェクター、そして、LCD ディスプレイなどが、ビデオ レディ デバイスとなってきている。この状況は、開発者にとって、ビジネスの機会が増えているといえるのではないか。」(Sharon Laivand 氏)

しかし、一方で、SIP サーバや SIP に対応したクライアント端末の開発は複雑であると、Laivand 氏は言う。インタラクティブリアルタイムサービスであるため、エンコードとデコードにリアルタイム処理が必要であるからだ。それに加えて、パケットの遅延や使用する帯域、さらに、ネットワークが不安定な際の対処など開発上のハードルは結構ある。もちろん、コミュニケーション端末であるため、相互接続性も必須だ。

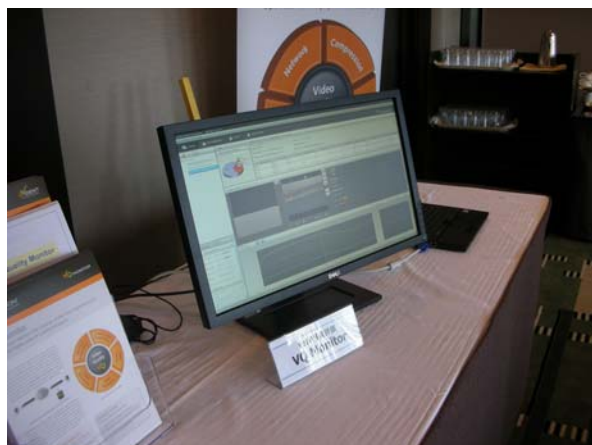
その上、昨今は、H.264/SVC やHDが広がってきているため、以上のような課題をさらに複雑化しているという。つまり、HD 化にともなって、高性能なチップを採用することになるが、それに伴う、回路設計、コーデック、アプリ、シグナリング関連などの設計変更などを考慮しなければならない。

従って、開発機会は増えつつも、開発者への負担がさらに大きくなってきているのが現状のようだ。もちろん、ゼロから開発を行えば相当なコストと開発工程を要求されることになる。とりわけ、通信機能の部分についてはそれがいえる。

「開発者が活用するソリューションは、開発者のニーズや課題に包括的かつ柔軟に対応できることがまず大切だ。それに加え、冒頭板橋氏が述べたように、開発コストの削減や市場導入期間 (time to market) の短縮を実現できる点も重要だ。」(Sharon Laivand 氏)

ラドビジョンの開発者向けソリューションは、サーバからクライアント、プロトコル、試験ツールまで包括的に提供しており、将来の技術進化も見越したターンキーソリューショ

ンであることが特長であるという。



試験ツール「VQ Monitor」操作画面例（ラドビジョンジャパン資料）

そして、コミュニケーションシステム開発に必須である、完全な相互接続性、オープン API、ユニファイドコミュニケーション・レディ、柔軟な管理機能を特長としている。

ラドビジョンでは、テキサスインスツルメント社のチップに対応した「BEEHD」や、インテル社チップに対応した「BEEMOBILE」などの開発者ツールを最近発表し、アンドロイドも含めたさまざまな端末アプリケーション開発がさらに低コストでかつ容易に行えるようになった。一例として、同社から発売された、サムソンとの共同開発である「VC240」は、サムソンのディスプレイと、TI 社のチップ、それに BEEHD によって開発された通信モジュールを組み合わせた製品例である。これにより、HD 対応製品でありながら、従来の同様製品に比べ格段に価格を下げる事ができたという。

セミナー講演の最後は、ラドビジョン社の開発向けソリューションについてのまとめと導入事例について、同社プロフェッショナルサービス マネージャーの Matan Barth 氏より講演があった。

「当社のソリューションを活用することができれば、たとえば、ユーザである開発者が行う開発は、全体の 2 割程度まで抑えられることができるだろう。そして、その他の 8 割は、ラドビジョンが提供することで、ユーザの開発工程とコストの削減に大きくつながる。」(Matan Barth 氏)

その際、とりわけ、通信部の開発は複雑であるため、ラドビジョンが、複雑な通信機能部分をモジュールとして提供する。それによって、開発者は、負担の大きい通信部の開発工程から解放され、特定のアプリケーションの開発にフォーカスできるようになり、開発コストも削減できる。

またそのターンキーソリューションに対して、当社が提供するプロフェッショナルサービスを組み合わせることで、非常に手厚いサポートが行えるという。

この通信市場は、非常に速いスピードで、さまざまな技術が登場してくるからだ。ゼロから開発しては、市場の展開に迅速に対応するのが難しく、ビジネス機会も失う結果になる。

プロフェッショナルサービスによって、開発に関するさまざまなきめ細かなコンサルやサポートが提供できるために、今後新たに立ち上がってくる新しい技術にも迅速に対応できるようになるという。もちろん、市場への投入までのコスト削減やトータルな開発時間(time to market)を短縮するためのバックアップも行う。



Matan Barth 氏（ラドビジョンジャパン資料）

同社の実績を示すひとつである導入事例についても紹介があった。アメリカの大手通信事業者向けのユニファイドコミュニケーションシステム、台湾の通信事業者向けの PC ビデオクライアント、また、アメリカでの手話仲介サービス、さらに、米政府(IMS システム)なども紹介された。「ユニファイドコミュニケーション関連の採用例は増えてきてい

る。米政府での例では、電話をかけてもつながらないというのは問題外で、通話完了 (call completion) が提供できるかどうかシステム採用での重要な条件だった。当社の次世代の IMS システム技術が採用された。」(Matan Barth 氏)

また昨年発売になった VC240。サムソンとラドビジョンの共同開発によって実現した製品。当初は、サムソンが当社ソリューションのユーザであったが、途中からビデオ会議端末を共同で開発するパートナーとなり、その両社のコラボレーションから VC240 という製品が誕生したという。「ユーザからパートナーへと進化したひとつの例。」(Matan Barth 氏)

一方、組込端末の事例では、Windows Mobile との完全統合を実現している「3G VT Application」を導入して開発した事例の紹介があった。ラドビジョンのテレビ電話機能の採用例は多く、韓国の「Samsung Blackjack」の他、台湾の「Gsmart MS 800」、「Arima Communications O2 Xda Flame」、あるいはイギリスの「Velocity 103/111」など多数あるという。また SIP 対応電話機では、韓国の「FIMCA H100/H200」などもあるという。

通信市場はこれから非常にビジネスの機会が増えていくと見ている。それを反映してラドビジョンの採用事例が増えているという。

「日本でもパートナー企業をさらに増やしたい。これから立ち上がってくる新しい市場に対して、パートナーと共にビジネスのエコシステムを構築し新しい市場の動きや顧客に対応していきたいと考えている。」(Matan Barth 氏)

*当日配布した資料の PDF を以下よりダウンロード可能。
<http://www.radvision.jp/contents/event/201004/seminar-100525.html>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

Flexible Cost Saverクラウドサービス 無料体験セミナー

日時: 東京: 第2回6月15日 15:00~17:00

主催: 株式会社 エフ・シー・エス

詳細・申込: <http://product.fcs21.jp/cost/cloud.html>

会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程: 2010年6月16日(水)、23日(水)、30日(水)、
7月 7日(水)、14日(水)、21日(水)、28日(水)

※全ての日程で14:00~15:00、16:00~17:00の2回開催

会場: NEC情報システムズ 本社(東京都港区)

主催: NEC

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

『クラウドコンピューティング時代の劇的経費削減』 厳しい経済状況にワークスタイル革新で 劇的経費削減と 推進力増強==新サービス 会議室型 SaasBoard 発表 ==

日時: 6月18日(金)13:30~17:00(開場:13:00)

会場: 渋谷区商工会館

主催: ニューロネット株式会社、ライド株式会社

詳細・申込:

<http://www.neuronet.co.jp/seminar/mailform100618.html>

無料 Web セミナー

Web 会議成功事例特集: 導入企業のビフォーアフター

--海外出張コスト削減、大規模研修、カスタマサポート等の
実名事例をご紹介します!--

日時: 6月24日 14:00~15:00

会場: Web セミナー

主催: シスコシステムズ合同会社

コラボレーション ソフトウェア グループ

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_062410.html?SourceId=m1

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

最近、シスコが韓国 New Songdo City プロジェクトにおいてテレプレゼンス実験を行うような動きとか、あるいは、スカイプが5人までの多地点ビデオチャットに対応したり、ロボットとビデオ会議が組み合わされたテレプレゼンスロボットがでてきたりと、また一方では、Google の Global IP Solutions 社の買収オファーなど、他業界と遠隔会議業界との接点といえますか、それもビジネスだけでなくコンシューマ向けも含めてですが、そういったものが増えてきて可能性が広がっているのではないかという気がしています。

CNAレポート・ジャパンとしては、8年以上この事業をやっていますが、恥ずかしながらまだまだとても大変です。しかし、何事も、よくばらず、あわてず、決めつけず、自身の定めた方向に向かって、今日できることを少しずつやっていく、そしてそれを積み重ねていく、ことがとても大切だと日々身をもって実感しています。まだまだやらなければいけないことが山積しており、修行の日々が続きます。次回も宜しく願います。(橋本啓介)